

校庭のカラスノエンドウを見ていた時、アブラムシの周りをちょこちょこ歩き回る小さなハチの姿が目に入った。これはもしや寄生バチかもしれない！と思ってじっと行動を観察してみることにした。すると、案の定、ハチがアブラムシに産卵し始めた！体を「くの字」に折り曲げて、おしりの先の産卵管をアブラムシに突き刺している。1匹終わったら隣のアブラムシにもプスリ…といった具合に、おそらく周囲にいたアブラムシ全てに卵を産みつけていた。

ハチといえば、胸とお腹の境目がくびれていて非常に細くなっているのが特徴的だが、この「くびれ」は、大昔（中生代三畳紀頃）、寄生するタイプのハチがこの世に誕生した頃に獲得した姿なのだそう。くびれのおかげで腰の自由度が上がり、このような「くの字」の姿勢で産卵しやすくなったのだそう。他の虫の体内に卵を産みつけるなんておぞましいが、世界のハチの3/4（約11万種）は寄生が狩りを行うのだそう（いきもの記Vol.33ではアリヤドリバチというアリに寄生するハチを紹介した）。

ところで、Vol.106で紹介した通り、アブラムシはアリをボディーガードとして雇っている。では、アリはアブラムシの天敵であるこの寄生バチを追い払うのだろうか？しばらく見ていると、アリは触角で寄生バチに触れて何者かをチェックする仕草を見せたが、とくに追い払うこともせず、その場を離れてしまった。そして、相変わらずアブラムシが出す甘露を舐め始めていた。こいつ、報酬を貰っているのにサボっているぞ！その間も、寄生バチはアリが来ようがお構いなしでプスプスとアブラムシに産卵を続けていた。

寄生バチに刺された（卵を産み付けられた）アブラムシは、しばらくの間そのまま生活を続け、体内でハチの幼虫が大きくなって食い破られるまで生き続けるのだそう。だからアリにしてみれば、寄生バチがいようがいまいがすぐにはアブラムシは減らないし、気にしていないのかもしれない。または、寄生バチの体の表面にはアリを騙すための何かしらの仕掛けがあって、アリに気づかれないようにしているのかもしれない（現にそのようにアリを欺いている虫はたくさん知られている）。



寄生バチに触角で触れるも特に何もしないアリ

気にせずアブラムシに産卵する寄生バチ

アリがいても気にせずアブラムシに産卵し続ける寄生バチ
アブラムシはアリをボディーガードに雇っているはずだが、アリは寄生バチに対して特に何もしない。触角で触って確認はしていたが、追い払うこともなく行ってしまった。

腰のくびれを巧みに使う アブラムシに寄生するハチ



アブラムシに産卵する寄生バチ 校庭のカラスノエンドウにて。4月25日
「くの字」の姿勢で産卵管を突き刺す。ハチ特有の腰の「くびれ」があるからこそできる芸当。左側で山になっているのはすべてアブラムシ。寄生されたアブラムシは、この後しばらくは生きていますが、じきに体内で育ったハチの子供が食い破って出てくるのだそうだ。

ハチのくびれの例（上の写真とは違う種類のハチ）

ハチやアリの仲間は基本的に胴の部分が非常に細く、くびれている。このくびれのおかげで腹部が自在に動くようになって産卵の自由度が上がり、寄生（他の生物へ卵を産みつける）もしやすくなったと考えられる。



非常に細くなっている